

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891300059
法人名	有限会社 スローライフ
事業所名	グループホーム まちなか
所在地	四国中央市川之江町字馬場2083番4
自己評価作成日	平成23年6月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年6月17日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームの名称どおり、川之江の“まちなか”に位置し、昔ながらの商店街が近くにあり地域に溶け込めるホームを目指しています。  
職員全員がまちなかでの生活を楽しみながら支援することで、利用者が安心して楽しく生活できるような雰囲気作りを努めています。  
今後は更なる地域に根ざしたホームでありえるように、積極的に地域参加をしていきたいと考えております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

食事は、職員で食事当番を決め、利用者と一緒に相談しながら献立を考えておられる。食材は、近所のスーパーや商店街に利用者と一緒に買いに行き、献立は、一汁三菜を基本に作っておられ、職員は利用者への声かけを工夫して、利用者と一緒に食事作りをされている。ご自分のお膳を下げる際に、お隣の方のも下げてあげている利用者の様子もみられた。食事やおやつ時にはテレビを消して、会話を楽しむことをすすめている。  
職員は、ご家族や利用者との日常の会話の中から得た情報を、項目別に「個別生活特性シート」にまとめて、暮らしへの希望等の把握に努めておられる。介護保険更新時には、フェースシートについても見直し、変化があれば更新されている。他利用者の居室に入居する利用者の方がおり、各居室の入り口扉の上部には、その利用者が入室した日と、正の字をメモ書きして、どの居室に多く入室するのかがという傾向を探っているところであった。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

まちなか

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

兵頭 崇将

評価完了日

平成23年 6月 1日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)  事業所の理念である“尊厳の保持”、“自立支援”を職員全 員で共有し取り組んでいるが、まだより良いサービス提供を 行える余地はある。	
			(外部評価)  理念は、居間と事務所に掲示されており、管理者は、利用者 のケア等について話し合う際には「理念に立ち戻り考える」こ とを職員に話しておられる。事業所のパンフレットには「大切 にしたいこと」として「あたりまえの生活・馴染みの生活」を挙 げておられ、利用者一人ひとりの人格を尊重したケアを目指 し、取り組んでおられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価)  自治会への参加、ボランティアの受け入れを行い、地域との 交流を持っている。 また、職員もまちなかの職員として、近隣の方と挨拶を交わし たり、声を掛けて頂いたりしている。	
			(外部評価)  玄関先のプリンターの手入れをしていると、近所の方が声を かけてくださったりする。地域の自治会に加入されており、回 覧板は利用者と職員で次のお宅に回しておられる。近所の 託児所の子ども達が2ヶ月に1度、遊びに来てくれており、利 用者とお絵かきをしたり、おやつを食べて、利用者にとって 楽しい時間となっている。管理者が交代した際には、近所に あいさつに出向き、お話をされた際、「ホームのことをだいぶ 知ってもらっている」と感じられたようだ。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価)  施設見学や相談等を通じて、認知症の理解や支援の方法 を地域の人々に向けて活かしている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>遠慮なく話し合えるように、和やかな雰囲気で行うようにしている。今後、より多くの方々に参加して貰えるように、近隣の方々へ声を掛けていきたい。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>会議は、民生委員の方や近所の方も参加され、2ヶ月に1回開催されている。会議は、30分程度の会議として、参加者の負担を考え時間を設定されている。事業所からは利用状況や活動報告をして、参加者に感想を聞いておられる。ご家族は決まった2名の方に案内を出して、参加していただいている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>月に1回の“ふれあい相談”を利用し、施設やサービスの提供についての意見等を交換し、改善・向上に努めている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議には、地域包括支援センターの担当者が出席していただき、事業所からの報告について「ヒヤリハットは、事例を紹介した方が、みなにわかりやすいのではないかと」アドバイスをいただき、その後の運営推進会議では、ヒヤリハット事例を報告して意見をうかがうようにされている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員一人ひとりが、身体拘束の定義について理解・把握しており、身体拘束をしないケアを実践している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>職員は、「自分がされていやなことはしない」ことに心がけ、無理強いしないケアに努めておられる。玄関は開放されており、自由に出入りできるようになっており、調査訪問時、玄関外でプランターの花の手入れをされている利用者の様子がみられた。</p>	

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  利用者に行う介護が、虐待にならないように常に心がけて関わっている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  職員会を通じて、学ぶ機会を持ち、職員全員が活用できるようにしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約時は、利用者本人もしくは、ご家族に十分な説明を行い、不明な点や分かりづらいところはないか確認し、納得して頂いてから契約をするようにしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  ご家族が来所された際に、近況を伝え、その折に意見や要望をお聞きし、反映・実践していくようにしている。また、事業所便りを発行し、普段の様子をお伝えするようにしている。  (外部評価)  ご家族の来訪時には、職員は「笑顔で挨拶する」ことを心がけておられる。ご家族からの伝言や要望・意見は、聞き取った職員が業務日誌に記録して申し送り、すべての職員が押印することになっている。ご家族には、毎月書類とともに、事業所の行事の写真や新しい職員の紹介等を載せた「まちなか通信」を送付されている。12月のクリスマス会と合わせて家族会を開催されたが、ご家族の参加は少な目であったようだ。	管理者は、今後は「行事の前に家族会を開催」することを考えておられた。ご家族は「お世話になってます」と言われることが多く、意見や要望を言われることは少ないようで、管理者は、ご家族は利用する立場であり、「言いにくいのではないかと感じておられる。運営推進会議や家族会の機会等を活かして、ご家族から意見等を具体的に引き出せるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎月の職員会で、提案・意見の交換を行い、それらを反映し、実施している。	
			(外部評価)	
			管理者の交替時には、運営推進会議時に紹介されたり、「まちなか通信」でお知らせされた。毎月の職員ミーティングで職員の意見や提案を出し合うようにされており、最近では、「職員が台所の方において、利用者が集まる居間に不在となる」ことについて、職員で話し合い「居間に必ず職員が居るようにする」ことを決められた。その結果、職員は「利用者とかかわる時間が増えた」と感じておられた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			介護職員の処遇改善制度を積極的に取り入れ、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境や条件の整備に努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修を受ける機会を積極的に設け、職員が参加できるようにしている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			他施設の見学や交換体験を行い、同業者との交流や勉強の場を提供している。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前に、事前調査を行い、本人の生活状況等を職員間で共有してから、本人と接する事で、本人の安心を確保できるような環境作りに努めている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	(自己評価)	<p>意向や要望など、互いに話しやすい関係作りに努めている。</p>
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	(自己評価)	<p>十分な聞き取りを行い、介護の度合いや支援を必要としていることを把握し、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	(自己評価)	<p>本人の能力や体調を考慮しながら、出来ること、出来るようなことを行って貰い、暮らしを共にしていることを忘れず、良い関係を築いている。</p>
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	(自己評価)	<p>ご家族の意見や要望を聞き、支援内容を共に検討するなどして、共に支えていく関係を築くように努めている。</p>
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	(自己評価)	<p>ご家族とのかかわりを中心に、近所の方や友人がいつでも気軽に来て頂けるような環境作りを心掛け、声掛けも行っている。</p>
			(外部評価)	
				<p>利用者の同級生の方やご自宅の近所の方が会いに来てくださることもあり、居間でお話しをされたり、居室でおしゃべりをされている。「自宅へ帰ってみたい」と、希望される利用者には、受診の帰りに立ち寄ってみられることもある。</p>

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	居室にこもりきりにならないように、声掛けを工夫したり、利用者同士が関わりが持てるような支援に努めている。
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	必要に応じて、相談や支援を行うように努めている。
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	日常の会話を通じて、一人ひとりの希望や意向の把握に努め、必要に応じて、ご家族からの助言を頂くようにしている。
			(外部評価)	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	普段のコミュニケーションや入居前の事前調査を踏まえ、これまでの生活の様子などを把握するように努めている。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	職員同士の申し送りや記録物より、利用者一人ひとりの状態を把握し、暮らしの現状を把握するようにしている。



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人の暮らしがより良くなるために、本人・家族と話し合いをし、課題・問題点の意見を出し合い、現状に即した介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価) 毎月の職員ミーティングで、2～3名ずつの利用者についてモニタリングをされている。ご本人、ご家族の意向に沿った介護計画の作成に努めておられ、6ヶ月ごとに見直しをされている。現在、介護記録の中に「ケアプランの欄」を設けておられ、管理者は今後、その欄の活用をすすめ、より現状に即した介護計画の作成に努めたいと話しておられた。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の様子やケアの実践・結果、気づき等を個々の介護記録・日誌に記入し、職員間で共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) その時々で、ご家族と話し合いの場を持ち、ニーズに対応出来る柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 安全で豊かな暮らしが楽しんでいただけるように地域資源と協働し、支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			ご本人、ご家族の希望を大切に、入所前からのかかりつけ医を受診できるように支援している。ご家族や職員が付き添い、十分な情報提供を行い、適切な医療が受けられるように支援している。	
			(外部評価)	
			利用者やご家族の希望で以前からのかかりつけ医に引き続き診てもらえるように支援されている。ご家族の都合に合わせて、職員が受診に同行されることもある。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			記録等を活かして、スムーズな情報提供を心掛け、適切な受診や看護が受けられるような支援を行っている。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	
			病院関係者との情報交換はもちろんのこと、利用者が不安にならないように、定期的に訪問し、安心できるように心掛けている。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			早い段階から、重度化した場合の方向性をご本人やご家族と話し合いの場を持つようにし、職員全員で共有し、チームで支援できるように考えている。	
			(外部評価)	
			重度化・終末期のあり方については、利用者・ご家族は「最期まで事業所でお願いしたい」と希望されている方が多く、事業所でも利用者・ご家族の希望を大切にした支援に努めておられる。10月にはご家族や職員で看取られた事例がある。ご葬儀には利用者も参列された。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)  職員一人ひとりが、緊急時に応急処置が出来るように、実践力を身につけるように努めている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)  日中・夜間を想定した訓練を実施し、避難の方法や対応を身につけるようにしている。また、地域の方々にも協力して頂けるように運営推進会議に参加して頂いている。	
			(外部評価)  年2回、避難訓練を実施されている。運営推進会議時、近所の方にいざという時の協力依頼の声かけをされている。	職員は「訓練の回数を重ねるごとに安心できる」と話されていた。いろいろな場面を想定して、災害対策を図っていかれてほしい。いざという時のためのネットワーク作りや、又、災害時、事業所が地域のためにできること等についても話し合いながら、地域との協力体制を作っていかれてほしい。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  理念である“自分がされたり、言われて嫌な事はしない。言わない。”を常に心掛け、一人ひとりの人格やプライバシーを損ねない言葉掛けを行っている。	
			(外部評価)  昼食時に手づかみで食事する利用者の方もみられたが、ご本人の食事への意欲を大切に、職員はそっとスプーンを渡したり、食べこぼし等をサポートされていた。男性職員が女性利用者の入浴にかかわるような時には、ご本人にお聞きして、同性介助を希望された場合は替わるようにされている。居室のおむつや尿取りパッド等、介護用品は3段ボックスに手作りカーテンを付けて収納されていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)  選択肢を選べるような声掛けを行い、日常生活の中で、本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者が思い思いのままに過ごして頂いており、その日をどのように過ごしたいか希望にそって支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時は特におしゃれ着に更衣して頂くようにしている。自分で選べない方は職員と一緒に服を選ぶようにしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理の下ごしらえや片付けを、出来る方には手伝って貰っている。また、外食の機会を設け、食を楽しめるようにしている。	
			(外部評価) 食事は、職員で食事当番を決め、利用者と相談しながら献立を考えておられる。食材は、近所のスーパーや商店街に利用者と一緒に買いに行き、献立は、一汁三菜を基本に作っておられ、職員は利用者への声かけを工夫して、利用者と一緒に食事作りをされている。ご自分のお膳を下げる際、お隣に方も下げてあげている利用者の様子もみられた。月に一回は、利用者の希望を聞き、うどんを食べに行ったり、回転寿司やファミリーレストラン等、外食に出かけておられる。食事やおやつの時にはテレビを消して、会話を楽しむことをすすめている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養のバランスに配慮することはもちろんのこと、一人ひとりの生活健康表を作成、記録し、個々の状態を把握するようにしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後、起床時、就寝前には、必ず、一人ひとりに応じた口腔ケアを実施し、清潔を保持している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)  定期的な声掛けや排泄チェックを行ない、排泄パターンを把握する事によって、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。  (外部評価)  排泄状況の記録にて、個々の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。ご本人が排泄中は、職員はトイレの外で待ち、声をかけてからトイレの中に入るようにされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)  乳製品や繊維質の多い食事に配慮し、自然に排便できるように支援している。また、必要に応じて、腹部のマッサージ等を行っている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)  仲のいい利用者同士で一緒に入浴したり、職員と会話を楽しむなどして、楽しく入浴できるように工夫している。  (外部評価)  浴槽内にはすべり止めマットを敷き、滑らないよう配慮されている。浴槽に一人で入ることが難しい利用者は、職員が2名で介助して温まれるように支援されている。入浴剤を使ったり、バラの花びらを浮かべてお風呂を楽しまれることもある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬には記名し、服薬の歳には、確認・見守りをしている。薬の副作用や症状の変化には十分に注意し、分からないことは、主治医に相談するようにしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎日の生活の中で、一人ひとりが得意なことや好きなことを活かせるように、役割やレクリエーションを取り入れている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望や体調に応じて、出掛けられるような支援を行っている。普段行けないような場所でも、都合を付けて、なるべく出掛けられるように努めている。	
			(外部評価) 日々、近くのスーパーや商店街に買い物に出かけたり、近くの市民会館へ散歩に行かれたり、桜のお花見もされた。職員手作りのお弁当を持って出かけたり、ドライブを楽しめることもある。今月末には、ご家族も誘って、新宮のアジサイを見に行く予定となっていた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望やホームでの買い出しの際に一緒に買い物に出掛け、好きなものを購入できるようにしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人からの申し出に応じ、電話をしたり、手紙を出したりできる支援をしている。	

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居心地の良い、落ち着いた雰囲気作りに配慮し、観葉植物や季節の花を飾ったりしている。利用者が一日の大半を過ごすリビングではTVの音、採光、照明、季節に応じた快適な室温に配慮している。	
			(外部評価) 洗面所には、玄関先のプランターで育てた早咲きコスモスやほたるぶくろ、葵の花が飾られてあった。居間や廊下は、毎朝、職員が掃除機をかけ、その後を利用者がモップがけをしてくださっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングや廊下にイスを置き、休憩や利用者同士のコミュニケーションの場を設けている。	
			(外部評価)	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人やご家族と相談し、使い慣れたものや好みの物を本人が使いやすいように配置している。	
			(外部評価) ベッドや布団は、それぞれのものを持ち込み、使用しておられる。畳を敷いておられる方もみられた。ご家族が描いた絵や誕生日に職員から贈られたお祝いメッセージの色紙を飾っている方もおられた。寝る前に飲む養命酒を用意しておられたり、ご自分で洗濯した下着を居室に干している方もいた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりの出来ることや分かることを把握し、分かりやすく表示や表記をして、安全で自立した生活が送れるように工夫している。	
			(外部評価)	